

会 議 録

会議名	令和6年度 第1回 宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和7年2月13日（木）10:00～11:30
開催場所	宇都宮市役所 14D会議室
出席者	【委員】若林芽育, 出井昌子, 小室かな子, 大久保順也, 黒子英明, 白石智子, 石川順章, 浅海伸子, 小松整洗, 野澤克子, 増渕祥子, 上野すみ子, 小牧裕昭, 木村洋, 和田大輔, 一宮道代, 宮崎倫男, 福田光子 計18名 【事務局】環境部長, 上下水道局技術担当次長, 環境部次長, 環境部副参事, 環境創造課長, 環境創造課総務担当主幹, 環境保全課長, 廃棄物政策課長, 廃棄物政策課主査, ごみ減量課長, 廃棄物施設課長, 下水道管理課長, 下水道建設課長, 下水道施設管理センター長, 水質管理課長, 廃棄物政策課課長補佐, 廃棄物政策課職員5名, ごみ減量課職員3名, 下水道管理課職員3名
公開・非公開	公開
傍聴者	—
議題	1 会長選出 2 一般廃棄物処理計画における令和6年度の実績及び令和7年度実施計画の策定について
会議結果	1 委員の互選により黒子英明委員を会長に選出 2 議事について了承

主な質疑応答	
一般廃棄物処理計画における令和6年度の実績及び令和7年度実施計画の策定について	
増渕祥子委員	「フードシェアリング」の内容について教えてほしい。
事務局	小売店等において、店頭に並んだ食べ物が売れ残ってしまう状況が発生した際に、割引をした価格で消費者に提供をして、食品ロス削減につなげるもので、本市では、今年度の5月からフードシェアリング促進事業を開始した。
石川順章委員	単身世帯や共働き世帯が増加している現在、多忙であることを理由にごみ出しを忘れてしまう人が多いと考えられる。資源物は週1回の回収なので、出し忘れてしまうと、燃えるごみの日に資源物も一緒に出してしまうという考えになる市民もいると思う。受け入れ体制等の問題もあると思うが、資源物の回収頻度を増やすと分別意識の向上につながるのではないかと。
事務局	資源物の回収を週2回にすることは現段階では想定していないが、地域によっては集団回収にて資源物を回収している地区もあるので、併せて活用し、可能な限り「資源物」として出していきたい。
浅海伸子委員	プラスチックの容器はどの程度綺麗に洗えば資源物として出しているのか。また、園芸に使用する金属製の支柱はどのような分別で出せばよいのか。
事務局	洗ってもなかなか落ちない油等の汚れが付着しているものは焼却ごみとして出してほしいが、水で洗って汚れが落ちるものは資源物として出してほしい。支柱については長さ50cmを超えるものは粗大ごみ、それ以下であれば不燃ごみとして出せる。

浅海伸子委員	給食残渣の資源化について、本格実施に向けてどのようなスケジュールで進めていくのか。また、今後のプラスチック製品の分別や収集方法についても教えてほしい。
事務局	令和6年9月から小中学校8校から出てくる給食の調理くずや食べ残しの生ごみを収集し、他自治体の民間事業者にて堆肥化する実証実験を実施しているが、来年度も継続して実証実験を行い、効率的な収集方法や資源化方法を整理し、市内の小中学校全校での実施を目指していきたい。 プラスチック製品の資源化については、すでに資源化を行っているプラスチック製容器包装の他にプラスチック製品の資源化を見据えて、令和5年度にその2つを一緒に収集するモデル事業を実施したところ、プラスチック製品を一緒に集めることによって、約2割程度、プラスチック資源（プラスチック製容器包装＋プラスチック製品）として排出される量が増えた。また、参加いただいた市民の方からは、「分別がわかりやすい」等、好意的なご意見をいただいた。今年度は、中間処理方法等の検討を進めているところで、出来るだけ早い時期にプラスチック製容器包装とプラスチック製品を一緒に収集できるよう進めていく。
若林芽育委員	生活習慣の違いから、外国人市民へのごみ分別の理解がなかなか進まない状況であるように思う。本市に住む外国人市民に対し、不動産管理会社や国際交流プラザとの連携に加え、集合住宅に住む外国人市民向けに分別講習会を実施するなど、より直接的な周知啓発に力を入れてほしい。
出井昌子委員	ごみ処理基本計画「令和6年度 of 取組状況（新規・拡充）」の、施策事業「分別強化推進」における、視覚障害者への取組は素晴らしいため、今後も続けてほしい。 また、ごみ処理基本計画の各施策事業の取組状況等の「環境教育の推進」において、小学4年生以前の、小学校低学年への環境教育は何か行っているものはあるか。
事務局	3Rに関する教育は小学4年生からであるが、小学校低学年については「もったいない運動」を中心に分かりやすく伝える取り組みを行っている。
出井昌子委員	ごみの有料化について、現時点でどの程度の検討が進んでいるのか。
事務局	本市の現況としては、一人一日当たりの家庭系ごみ排出量について、令和7年度の短期目標を達成する見込みで、順調に推移している。今後も周知啓発等の施策に継続して取り組むとともに、新たな施策の検討を行い、ごみの減量化、資源化を推進していきたい。 ごみの有料化については、他市の状況や効果、課題等について、引き続き情報収集や分析をしていく。
小室かな子委員	単身者に向けた周知啓発としてSNSを活用するのだと理解したが、具体的にどのような内容でやっていくのか。
事務局	ごみの減量や分別、3R推進などの広告をXやInstagramに掲載して周知啓発をしていく。
小室かな子委員	プラスチック製容器包装の分別について迷うことが多いと思うが、他市では本市よりも詳しくホームページ上にプラスチック製容器包装の分別に関するQ&Aを掲載しているので、参考にしてほしい。
事務局	わかりやすく、分別に迷わないような表示方法について、検討していく。
小室かな子委員	分別講習会を開催している地域性は把握しているか。
事務局	連合自治会単位で考えると、毎年のように開催している地区とまだ開催をしていない地区とがあり、地域によって差がある状況である。
小室かな子委員	どの地域に住んでいてもごみの分別のことは生活に関わってくることなので、まだ開催していない地区には、ぜひ開催を働きかけてほしい。
事務局	自治会から推薦いただいているリサイクル推進員の研修で案内をしたり、リサイクル推進員ハンドブック等にも掲載したりしている。多くの地域で開催し講習を受けていただけるように引き続き取り組んでいく。
大久保順也委員	ごみの分別がされていない、もしくは回収曜日が違う等の理由で、ごみの収集事業者の方で出されたごみを回収せず、違反ステッカーを貼ってごみステーションに置いたままにしてお

	く状況が散見される。収集事業者から市へ連絡し、該当自治会に情報共有される仕組みになっているのか。
事務局	その都度自治会への情報提供を行う仕組みとはなっておらず、ステッカーを貼ったごみを置いたままにしておくことにより、前回自分で出したごみには違反があるんだということを認識してもらうためにこのような対応をしている。
大久保順也会長	違反ステッカーを貼ったごみが一定期間置いたままされていても、近隣住民がそのごみを片付けてしまうと、出した本人は自分が違反ごみを出したことに気が付かない。常習性がある場合には、収集事業者の方から市に連絡が行くようなスキームがあれば違反ごみを出す人も減ると考える。
上野すみ子委員	令和7年度実施計画（案）の、「不法投棄の未然防止、拡大防止の推進」の設置が容易なカメラ（移動式監視カメラ）の導入による突発的に発生する不法投棄への機動的な対応が目新しいものであった。商店街では主に夜間に、誰が捨てたか分からないごみが散らかっていることがあるので、設置が容易な移動式監視カメラが商店街等でも活用できるのであれば、導入を考えたいと思うが、具体的にはどのような手法になるのか。
事務局	この移動式監視カメラは、不法投棄が頻発する場所に設置して、行為者や時間帯の特定をするためのものである。悪質性の高いものが頻発して投棄されるような状況があったら、カメラを設置して行為者の特定に努めていきたい。
上野すみ子委員	生活排水についてであるが、他自治体で起きた、下水道管の老朽化による道路の陥没事故を受けて、本市の古い下水道管について調査を行っていく予定はあるのか。
事務局	本市においては30年以上経過した下水道管については、点検調査を行い、その結果を踏まえ補強する工事を順次進めているところ。今回、他自治体で大きな事故があったため、令和7年度以降に予定していた点検の中で、2,000ミリ以上の大きな管については前倒しして今年度実施している状況である。
小松整洗委員	本市への転入者に対して、転入時にごみの分別について指導をしてほしい
白石智子委員	資源化の仕方について情報提供していくことは必要であるが、元々資源化に対しての意識が高い人に対しては、例えば、プラスチック製容器包装は、この程度洗えば資源化できると啓発することは効果があることだと思うが、意識が低い人に対しては啓発が難しい。分別の仕方の周知を進めていくことと並行しながら個人が資源化したいと思うような、自律性に訴えるようなアプローチの仕方も考えていくべき。 また、個人によって懸念点は異なってくると思うので、アンテナを広げてアピールの仕方を多元化してもいいのではないかと考える。
出井昌子委員	宇都宮市では生ごみ処理機の補助をしているが、機械の使用には電気がかかる。生ごみを堆肥化する観点から、コンポスト等も推進していくべき。そして、堆肥化したものは宇都宮市内の農家に提供し、活用してもらう。生ごみを資源として地域で循環させるようなシステムを検討したらいいのではないかと考える。
出井昌子委員	給食残渣の資源化を市内の小学校8校で今年度実施したとのことだが、そこで資源化された生ごみは一人一日当たり排出される焼却ごみの内のおよそ何%に当たるのか。
事務局	割合については計算しなければ分からないが、9月から3月まで、8校で資源化の実証実験を行い、合計36tを資源化する予定である。
小室かな子委員	出井議員の意見と同じく、生ごみは燃やすのではなく堆肥化がよいと考える。 また、設置が容易な移動式監視カメラは何台の設置を見込んでいるのか。
事務局	現在設置しているカメラは32台であるが、これから設置予定の、移動式監視カメラについてはこれから検討していく。現段階では数台設置する見込み。
小室かな子委員	現在剪定枝の回収をしていると思うが、枯草や葉っぱのリサイクルについては、今後の展開を考えているのか。

事務局	現在、剪定枝については工場に搬入されたものを民間の施設へ運搬し、年間１，０００ｔ程度資源化を図っているところである。 枯草や葉っぱについては、コスト的な問題や、集めた後に処理する施設が近隣にないといった問題があるため、今後調査検討していく。
小室かな子委員	他市（千葉市等）の事例等参考に検討を進めてもらいたい。